

怪談牡丹灯籠

序

春のやおぼろ

青空文庫

およそありの儘まに思こう情ころを言い 顯あらわし得うる者は知らずくいと巧妙なる文をものして自
 然びに美辞のりの法かなに称すべんさあおきな
 遊亭おじの叟くえんが口演ぼたんどうろうせる牡丹よび灯籠なとなん呼よ做ひしたる 仮つくり作り譚ものがたりを速記つくりものといはう法ほうを用いてそ
 のままに膽うつしつとりて草紙そうしとなしたるを見待み侍はべるに 通つう篇へん俚言俗語りげんぞくごの語ことばのみを用いてさまで
 華はなあるものとも覚えぬものから句くごととに文ぶんごととにうたゝ活動おもむきする趣おもむきありて宛さ然ながらまのあた
 り萩原某はぎわらそれに面合おもてわするが如おつゆく阿露おとめの乙女あいみに逢見ある心地あいかす相あ川かわそれの粗そ忽つかしき義ぎ僕ぼく孝こう
 助うすけの忠まめやかなる読よみきた 来きれば我われ知しらず或あるは笑わい或あるは感かじてほとく真まの事こととも想おもわれ仮つくり作り
 ものとは思おわずかし是こははた文ぶんの妙まなるに因よる歟かし然しかり寔まに其そのの文ぶんの巧た妙まなるには因よると雖いえも
 彼かの圓朝おじの叟おじの如かきはもと文壇ぶんだんの人ひとにあらねば操觚そうこを学まびし人ひととも覚えなずしかるを尚なよく
 斯かくの如かく一吐いつといちげん 一言い文ぶんをなして彼かの爲ためながおきな 永ながの翁おきなを走からせ彼かの式し亭ていの叟おじをああぎむく此この好こ
 稗史うはいしをものすることいと訝いぶかいに似にたりと雖いえもまた退しりぞいて考かうれば単ひとえにおおじののぶのの深ふか
 く人情ずいの髓うがを穿うちてよく情じようあい合あを写しせばなるべくたゞ人情ひの皮相ひを写しして死ししたるが如か
 き文ぶんをものして婦女ふじょ童幼どうように媚こびとする世よの浅せん劣れつなる操觚そうこ者しや流りゅうは此この灯籠とうろうの文ぶんを讀よみ
 て圓朝おじ叟おじに耻はじらめやは聊いさか感かぜし所ところをのべて序ごを乞こわるゝまゝ記きして与よえつ

春のやおぼろ
しるす

青空文庫情報

底本：「圓朝全集 卷の二」近代文芸資料複製叢書、世界文庫

1963（昭和38）年7月10日発行

底本の親本：「圓朝全集 卷の二」春陽堂

1927（昭和2）年12月25日発行

※「旧字、旧仮名で書かれた作品を、現代表記にあらためる際の作業指針」に基づいて、底本の表記をあらためました。

ただし、繰り返し記号はそのまま用いました。

また、総ルビの底本から、振り仮名の一部を省きました。

底本中ではばらばらに用いられている、「其の」と「其」、「此の」と「此」、「彼《あ》の」と「彼《あの》」は、それぞれ「其の」「此の」「彼の」に統一しました。

入力：小林繁雄

校正：仙酔ゑびす

2010年2月8日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

怪談牡丹灯籠

序

2020年 7月18日 初版

奥付

発行 青空文庫

著者 春のやおぼろ

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>